

## 保育計画成果報告書

法人名	学校法人さくら学園
施設名	小規模保育施設たんぼぼ保育園
報告者（役職）	松尾章子（園長）
住所・連絡先	宮城県登米市中田町宝江黒沼字葉の木立 129 - 2
	☎ 0220-34-6677 E-mail sakuragakuendk@ybb.ne.jp

○タイトル（保育計画）

\*めざせ！スプーン名人      \*めざせ！体力もりもり元気っ子！

○主な助成備品

透明ジャイアントビーズ、アイクリップ、ミニミニ鉄棒、レインボートンネル等

### 1. 保育計画策定の目的

学校法人さくら学園では、認定こども園、認可保育所、たんぼぼ保育園の3つの園を運営しています。この3園の共通の保育目標の中から特に重要だと思われる①体力作り②箸指導の二つをピックアップし保育目標に掲げたたんぼぼ保育園で実践して来ました。しかし応募動機にも記載しましたが、限られた予算の中では十分な教材をそろえることができませんでした。そんな時幸いにも今回受賞することが出来、念願だった運動遊び（鉄棒、ボール入れ・トンネル）や箸指導のための基本活動である指先遊び（ビーズの紐通し、アイクリップ遊びなど）の教材をそろえることが出来、日々の保育の中で使うことができるようになりました。いただいた遊具で子供たちが嬉々として遊ぶ姿を見るにつけ、今も授賞式での感激がよみがえってきます。

0歳児の頃から体を十分に動かし体力を付けていく事、又様々な指先遊びを行い3点持ちができるようになり正しく箸が使えるようになる事を目標に、楽しみながら保育を進めている毎日です。

### 2. 具体的な実施内容

#### 1、指先遊び

- ・アイクリップを使ったはさみ遊び
- ・大小のビーズの紐通し
- ・手作りおもちゃでの遊びやボール掴み

物を掴まめる事が出来るようになった頃から指先を使う遊びを保育に取り入れて行く事で手・指先の発達が促され、しっかりとした3点持ち（親指・人差し指・中指でスプーンを

持つ) が出来るようになっていく。3点持ちが正しくできるようになると、スプーンが正しく持つ結果箸を正しく持つ事につながっていくと考え、0~2歳の3年間の間で正しく持つように目標を定めて活動を行っている。

0歳児の紐通し  
ジャイアントビーズ



1歳児の紐通し  
ピックビーズ



2歳児の指先遊び  
アイクリップ



## 2、運動遊び

- ・アスレチック遊び（平均台・滑り台・トンネル）
- ・ボール入れ（バスケットゴール）
- ・ぶら下がり遊び（ミニミニ鉄棒）

0歳児～2歳児のこの時期に、年齢に合った体力づくりの活動を日々の保育の中で行っていく必要があるため様々な遊具を活用し「歩く・登る・跳ねる・ぶら下がる・投げる・くぐる」等の運動を保育の中に積極的に取り入れて保育を行っている。その積み重ねが3歳以上になったときに体力作りの効果として表れてくると思われる。





### 3. その成果と評価

正しく箸が持てる・体力が付いてくる目安の期間を3年と設定し、活動を展開して約1年が経過しました。これらの活動を日々の保育の中に取り入れて感じることは子供達の吸収力のすごさでした。遊びの感覚で課題を難なくクリアし私達の予想以上のスピードで次の課題に取り組んでいく子供達。指先遊びでは、初めはうまくクリップを扱えない子がほとんどだったのに、1年後の現在、2歳児などは自由に形を作る事が出来るようになっていました。1歳児や0歳児も2歳児を見習い見様見真似でクリップや紐通しに挑戦しています。現在正しい3点持ちが出来るようになってきている子は0・1歳児混合のクラスでは12名中7名、2歳児は7名全員が出来るようになっていました。又正しく箸を使って食事をしている子は、0・1歳児クラスでは3点持ちができる7名中4名となっています。2歳児は7名中6名が正しく箸を使うことが出来るようになりました。又園だよりや保育参観を通し指先遊びの重要性を保護者の方に認識してもらい、家庭でも園と同じように箸指導に取り組んでいる家庭もありうれしい限りです。

運動遊びについては、特に鉄棒においてぶら下がることが目標でしたが、今では保育士に支えてもらいながら鉄棒によじ登る事にチャレンジする子が現れたり、自分達で工夫し考え遊びを次々に発展させて行くのを目の当たりにし感心する事ばかりでした。これもひとえに、いつでも自由に毎日指先や体を使った活動が可能になったお陰と感謝の気持ちで一杯です。

### 4. 今後の課題と展望

0歳児で入園したたんぽぽ保育園で保育を受け卒園するまでの3年間の間に、私たち保育士はどのような内容の保育を子供たちに提供すれば良いのか常に考えて保育を展開しています。幸い助成事業のお陰で本園の保育目標の一つである体力づくりや指先遊びの遊具を今まで以上に使用する事が出来るようになりました。今後の課題としては、狭い園庭の有効な活用法を工夫しながら室内遊具だけでなく、外でのダイナミックな体力づくりの方法を考えていきたいと思っています。乾布摩擦・散歩・かけっこなど現在取り組んでいるものの他にもよじ登る、ジャンプで降りる等の体力づくりの場を今後どのように整備していくのか課題となっています。又指先遊びに関しては正しく箸が持てる子に育てるには家庭との協力がカギとなってくると考えています。園だよりでの啓発だけでなく、保育参観の回数を増やし園で行っている指先遊びの様子を見てもらい、親子で一緒に取り組んでもらう中から0歳～2歳児の時期に指先を使った遊びの重要性を理解してもらえる機会を作っていかなければならないと考えています。

たんぽぽ保育園で過ごす子供達のこの3年間の重要性を私たち保育士は、しっかりと胸に刻み、子供たちの幸せを願いながら今後も心を込めた保育を行ってまいります。

以上